



ガンピーさんのふなあそび

ジョン・バーニンガム さく

みつよし なつや やく

ほるぷ出版 1976年 1260円

32ページ 26×26cm

ある日、ガンピーさんは船で出かけました。すると、子ども達や動物達が「乗せて」と言ってつぎつぎに乗ってきました。こんなに乗っても大丈夫？とちょっと心配になるくらいです。はじめはみんな楽しく乗っていたのですが、しばらくすると大変な騒ぎになり、とうとう船がひっくり返ってしまいます。でも、岸まで泳いで、服をかわかしたあとは、おきまりのお茶の時間です。イギリス在住のバーニンガムらしいのどかな生活が、ペン画に淡い水彩で描かれています。お日さまの下でたっぷり遊ぶ子ども達と動物達が、のびのびとしていて、みんなどこかとほけた感じの表情が楽しい絵本です。他に『ガンピーさんのドライブ』もあります。



きこえるきこえる

マーガレット・ワイス・ブラウン 作

レナード・ワイズガード 絵

よしがみ きょうた 訳

小峰書店 1998年 1365円

44ページ 26×19cm

目にごみが入って包帯を巻いたので、何も見えなくなった子犬のマフィン。マフィンは耳をぴんと立てました。いろいろな音が聞こえてきます。大きな音も、小さな音も、お日さまが顔をのぞかせた音も、雪の降る音も聞こえます。おや、また何か音が聞こえてきました。今度はとても小さな音です。いったい何の音でしょう？

いろいろな音が聞こえてくるような気がしてくる絵本です。子犬のマフィンは好奇心いっぱいの子どもの姿です。マフィンのように耳をすまして、今まで気づかなかった音を探してみませんか。